

韓国の医療機関等を訪問

長崎・ヒバクシヤ医療国際協力会 (NASHIM) は、平成 7 年度から韓国の医師や看護師等を長崎に招聘し、被爆者医療の研修を実施していますが、今後の参考とするため韓国の医療関係者との情報交換、赤十字病院等の実情を把握するため去る 11 月と 2 月に韓国を訪問しました。 - 省略 また、2 月にはナシムの井石哲哉会長 (長崎県医師会長) が森秀樹日赤長崎原爆病院副院長等とともに韓国を訪問しました。まず韓国人被爆者に対して福祉事業を行っている大韓赤十字社を訪問し、1 月下旬に就任されたばかりの張錫準事務総長 (事務総長は日本赤十字社社長に該当) や裴煥洙特殊福祉事業所長と懇談しました。張錫準事務総長は、「ナシムはたいへんすばらしいことを行っており、長崎で研修を受けた人たちは韓国に帰ってから実際に研修の成果を生かしている。大韓赤十字社としても韓国の被爆者たちを積極的に支援していきたいと考えている。」と述べられました。

嶺南大学医学部附属病院は韓国に 20 ケ所ある原爆被害者診療協定病院の - つで、昨年 10 月、同大学の金世東医学部長がナシム研修で来崎したのがきっかけで今回視察したものです。同病院は病床数が 914 床で、PET が 2 台使用されているなど、先進医療



嶺南大学医学部附属病院を視察

を行う大邱市内でもトップ水準の病院です。韓国人被爆者が多数居住している陝川から近いこともあり、被爆者がよく診療に訪れる病院の - つです。尚州赤十字病院がある尚州市は慶尚北道の北西部にある都市で、人口は 11 万です。尚州赤十字病院は尚州市の代表的な病院で、病床数は 265 床、12 診療科があります。会元基院長と金 容吉管理

部長の病院概要説明後、金 串吉管理部長が病院内を案内してくださいました。同病院は各種先進的な事業を行っており、地元新聞でたびたび紹介されています。たとえば、労使和合による病院運営、障害者に駐車場無料開放、一人暮らしの老人に対する無料訪問看護の実施、夏休みや冬休み期間、家庭が貧しくて昼食がとれない児童に対する食事の提供などです。また、老人の生きがい対策として病院内に長寿大学を開設し、余暇活用、自己発展、健康増進のための各種講座などを行っています。

大韓赤十字病院は日本の病院と比べて職員数が少ないこと、ホームレスや外国人労働者に対する無料診療等により経営が厳しい事情にあることなどがわかりました。しかし赤十字の基本原則である「人道」、「奉仕」を身をもって実践している医師や看護師、その他の職員たちにはどこか使命感にあふれるものを感じるとともに、地域住民たちからの信頼がかなり厚いという印象を受けました。

韓国内での訪問先	
11月22日～23日	2月14日～16日
大韓赤十字社本社 翰林大学聖心病院 仁川赤十字病院 仁川サハリン同胞福祉会館	大韓赤十字社本社 嶺南大学医学部附属病院 大邱赤十字病院 大邱医療院(大邱市立病院) 大邱市医師会 尚州赤十字病院



尚州赤十字病院を視察